

今期コンポスト農園が始まりました

4月10日、浄化センターにて令和7年度～令和9年度期のコンポスト農園利用者説明会を開催し、23名の方に参加していただきました。農園利用についての説明をした後、「山形コンポスト」を製造している東北三共有機株式会社の今野社長と、営業担当の阿部さんからコンポストについて説明をいただきました。

阿部さんのお話によりますと、「肥料は植物の【栄養】ではありません。肥料は微生物が分解することによって初めて植物の【栄養(水に溶けた状態)】になります。

そしてコンポストは発酵を繰り返して完熟させることで病原菌を死滅させているので、病気の心配がありません。」ということでした。その後の質疑応答では、利用者からの施肥のタイミングや量、施肥時に一緒に入れると効果があるものについてなどの質問に阿部さんからお答えいただきました。

◎「山形コンポスト」は、土作りの時に与えるのが一番良いので、耕作時にすき込んで施肥してください。量は多く与えても大丈夫です。

◎石灰と苦土石灰の、土に与える効果の違いについての質問では、どちらも土の酸性度を調整するのに使うが、一緒に使うと反応してアンモニアガスが発生し土に良くないため、施肥する1～2週間くらい前に与えた方が安全だそうです。

屋内での説明を行った後、外の農園を見させていただきました。説明会の終了直後に耕作に取り掛かる利用者もいらして、皆さんが楽しみにしていたのが伺えました。

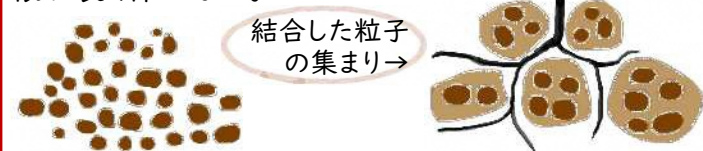


土が元気になるポイント

「山形コンポスト」を土に与えると、微生物が増えていきます。微生物の働きにより土が**団粒構造**になり、水はけと水もちのバランスが丁度よくなります。さらに微生物が増えることで有害菌が増えにくくなります。効き目はゆっくりと長く続き、連作障害が起きにくい土になります。そのため「山形コンポスト」を使った土では植物が健康的に育ち、質が良くなるのです。

団粒構造について

単粒構造の土(左図)は養分や水分が留まりにくい。根が良く伸びない。



↑茶色の粒は土の粒子。

団粒構造の土(右図)は小さな隙間に水分や養分が留まり、大きな隙間は空気や水分が通りやすい。

農園から



環境美化活動を行いました

6月28日、農園利用者の皆さんと浄化センター職員とで、農園内の草刈りなどを行いました。朝早くから照りつける日差しの下での作業でしたが、滞りなく作業が実施されました。おかげさまで、農園をきれいに整えることができました。ありがとうございました。



アンケートの結果をお知らせします

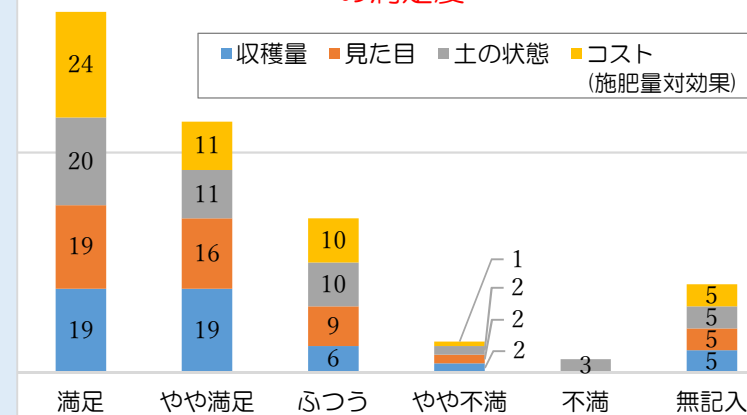
コンポスト農園利用者からいただいた前年度のアンケート結果から一部をご紹介します。

気をつけたことや工夫したこと

- ・紅花やナス類の連作障害が気になったが、コンポストを多めにして土作りをした結果、障害が見られなかった。
- ・雨が続くと畑に水が流入するため、うねをちょっと高くして栽培した。
- ・畑作りの最初にコンポストと元肥ともみ殻を混ぜたら土がフカフカになった。
- ・雑草の成長が早いので小さいうちに除去した。
- ・コンポストはカリウムが少ないので、ほかの肥料と合わせて使った。
- ・秋の収穫後にコンポストを入れて土作りしたら春の作業がとても楽になった。



「山形コンポスト」の施肥効果についての満足度



あとがき

最近は気温がかなり高くなりますので、屋外はもちろんご家庭でも、水分と塩分の補給を十分に、体を大事にしてお過ごしください。(大橋)